

犀峡校におけるカヌー授業・修学カヌーツーリングについて

長野県篠ノ井高等学校犀峡校

◎ カヌーの授業

長野県下の高校でカヌーの授業を正式に取り入れているのは犀峡校だけである。

平成8年度に教科に取り入れることにした。時の学校長は平林良治先生で、体育科の主任は米倉誠先生であった。平成8年度は1年間研究期間とし、カヌー協会の指導・助言を得ながら安全面について検討を重ね、万全の準備をして臨んだ。教職員の救急救命研修会への参加、生徒全員に普通救急救命講習を受講させるなど、安全意識を高めた。

平成9年度には時間割編成で体育の授業を2時間連続にし、カヌー授業を開始した。

平成9年8月1日調べで当時のカヌーの艇数は、授業用9艇（内、学校購入艇4艇、カヌー協会所有の練習艇5艇）、クラブ活動用7艇（全部カヌー協会の競技用のもの）であった。

当初は学校のプールで基本練習をし、操艇が充分できるようになった者から犀川湖面での練習に参加した。年度中途、学校長は県教委と折衝して特別予算の配当を受け、救命用のゴムボートなどを購入した。

このようにして始まったカヌーの授業は現在も続けられ、カヌークラブは毎年県及び北信越を代表して連続4年国体出場を果たし、各方面の注目を受けながら犀峡高校の名声を高めている。

長野県犀峡高等学校「創立八十周年記念誌」（平成13年10月27日発行）より

◎ 修学カヌーツーリング

- 平成11年度（1997年度）に第1回実施
- 平成28年度、第18回
- 現在の距離は約10km（下り約8km、上り約2km）
- 今回の参加者
生徒25名（シングル17艇、ペア4艇）、職員3名（シングル3艇）

高校生活の思い出として忘れ難いものになるだろう。上水内郡信州新町の犀川で、思い思いにカヌーを操る犀峡高校の三年生たちの様子にそんな印象を受けた。「修学カヌーツーリング」として、約8kmのコースを先ごろ挑んでいる。◆体育にカヌーを取り入れた独自の教育の一環だ。プールで基礎を学び、近くにあるダム湖で実習を重ねてきた。ツーリングは三年間の学習の総まとめに当たる。これほど長距離をこなすのは初めての生徒が大半だった。慣れ親しんだ景色も川から眺めると、別の味わいを生む。貴重な体験だったに違いない。◆どの高校でもできるというわけではない。地域の恵まれた自然環境があればこそ、の試みである。生徒の減少に悩むなかで特色をつくろうと九七年に授業を始めた。長野県内で唯一のカヌー部も発足し、国体に毎年選手を送り出している。すぐ多くの受験生を引き付ける力にはならないとしても、確かに犀峡高校を特徴づけた。【以下省略】

平成12年8月27日の信濃毎日新聞「斜面」より